

まんのう池

かがやくけん、かがわけん。

香川県

香川県営満濃池用水改良事業概要

計画の大要

満濃池旧堤外法に新堤塘を6m高く築造し貯水量は2倍に増加した。貯水量の増加に伴い新たに土器川より最大8.0m³/secを取入れるため天川導水路延長4,668mを新設した。

工事概要

1.満濃池及堰堤

河川名	金倉川	貯水量	15,400,000m³（旧7,800,000m³）
位置	仲多度郡満濃町神野	満水面積	138.5ha（旧104ha）
型式	土堰堤拱型	直接流域	1,280ha
堤高	32.0m	間接流域	8,610ha { 財田川1,230ha 土器川6,700〃 転石 680〃
堤長	155.80m		
堤体積	218,000m³		
満水位	EL.146.00m（旧139.65m）		
洪水位	EL.147.00m		
法勾配	{ 上流側 3.0割 下流側 2.5割		

2.満濃池附帯工事

余水吐	{ 型式 側溝余水吐 計画放水量 110m³/sec	取水塔	{ 高 30.0m 内径 5.00m 吸水管 φ800mm 8ヶ
付替道路	{ 延長 4,267m 幅員 3.00～3.60m	底樋管	{ 型式 隧道 放水量 4m³/sec 延長 197m
副堰堤	{ 型式 土堰堤 堤高 東堤塘13.58m 西堤塘12.30m 堤長 75.60m 81.07m 堤体積 24,681.0m³		

3.導水路工

天川頭首工	{ 河川名 土器川 型式 コンクリート 溢流堰	堤高 2.70m 堤長 25m	天川導水路	{ 延長 4,668.0m 通水量 8.0m³/sec
金倉川左岸幹線水路	{ 延長 6,986m 通水量 2.0m³/sec			

4.事業費

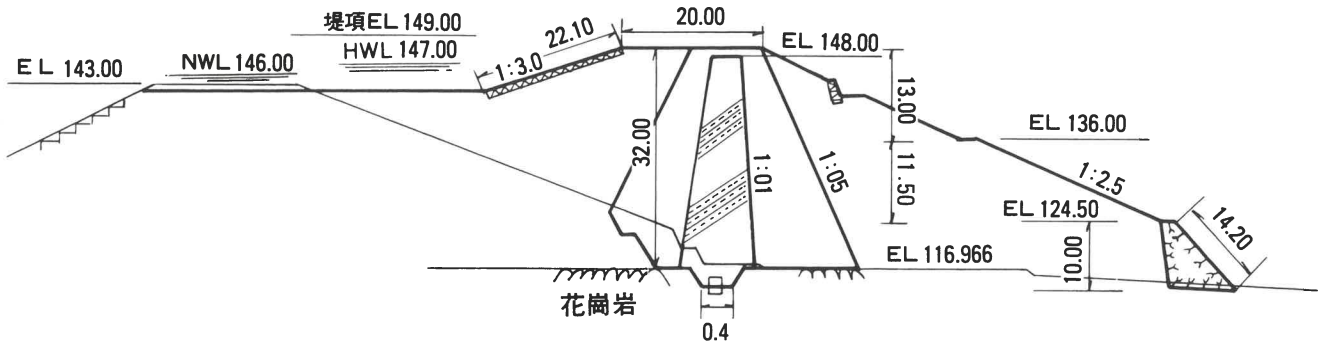
満濃池増築工	247,512千円	工事期間	関連事業
天川導水路工	152,693	着工 昭和15年12月6日	満濃池用水を有効適切にかんがい
金倉川左岸水路工	70,817	竣工 昭和34年3月31日	するために別途金倉川沿岸用水改
調査工その他	22,003		良事業で8幹線水路の整備を実施
工事雑費、事務費	50,302	事業効果	した。
合計	543,327	増産効果 米1,570ton	幹線水路延長 55,338m
		労力維持費の節減	総事業費 639,122千円
			工事期間 昭和28年～昭和43年度

満濃池の略史

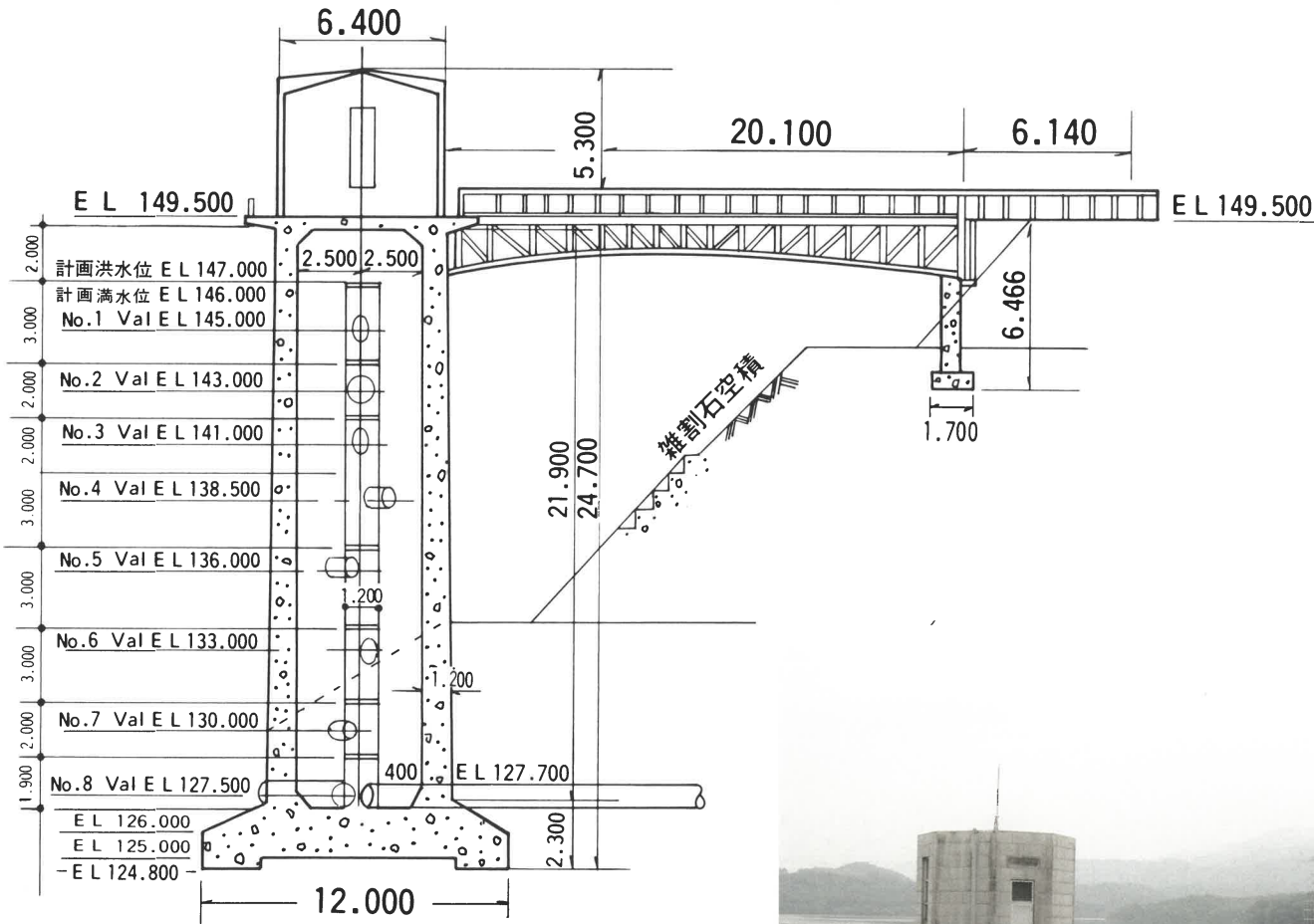
満濃池は貯水量が1,540万m³もあり、その規模が大きいことと弘法大師ゆかりの池ということで、その名が全国に知られている。
「万濃池後碑銘」（平安遺文）によると、その創築は大宝年間にまでさかのぼると伝えられているが、その後決壊を繰り返し、いくたびかの再築、修築を経て現在の満濃池ができあがった。

和年号(年)	西 暦(年)	主 な 出 来 事
大 宝 年 間	701～704	讃岐の国守道守朝臣が創築。
弘 仁 9	818	洪水により堤防が決壊。
〃 12	821	朝廷の築池使、路ノ真人浜継が派遣され復旧に着手したが容易に成らず、あらためて築池別当として空海（弘法大師）の派遣を要請し再築。
仁 寿 1	851	洪水により堤防が決壊。
〃 2～3	852～853	讃岐国守、弘宗王が復旧。
元 暦 1	1184	5月1日、洪水により堤防が決壊。 この後、鎌倉、戦国時代の争乱期を含めた約450年間は復旧されないまま荒廢にまかせられ、池の中は「池内村」となる。
寛 永 5～8	1628～1631	豊臣秀吉の天下統一後大平の世となり、徳川家光の時、讃岐領主生駒家4代高俊が家臣の西嶋八兵衛に命じ再築。 水掛かりは3郡44カ村35,814石に及び当時の讃岐総石高の約1/6を占めた。
嘉 永 2～6	1849～1853	樋管（ゆる）は木製であり、寛永8年の再築後も底樋の伏替が6回、堅樋又は櫓の仕替は12回に及んだが、この時底樋を木製から石造りとする。
安 政 1	1854	7月9日、大地震により石造りの底樋がゆるみ堤防が決壊。 幕末の混乱期で、復旧が遅れたため榎井村の庄屋、長谷川喜平治は私財を投じて東奔西走したが志半ばで死去。
明 治 2～3	1869～1870	高松藩の松崎洪右衛門、倉敷県の参事島田泰雄らの支援のもと、榎井村の長谷川佐太郎、金蔵寺の和泉虎太郎らの尽力により復旧。この時堤防西隅の大岩に石穴をうがち底樋とする。 （貯水量5,846千m³、役夫144,900人、工事費4,073円）
〃 31	1898	堅樋、櫓の改修（工事費10,300円）
〃 38～39	1905～1906	第1次嵩上（0.87m）及び余水吐改修。 （貯水量6,678千m³、工事費16,761円）
大 正 3	1914	配水塔新設（工事費18,900円）
昭 和 2～5	1927～1930	第2次嵩上工事（1.5m）及び財田川からの承水隧道新設工事（400m）等を県営事業で実施（貯水量7,800千m³、工事費428,700円）
〃 15～34	1940～1959	昭和14年の大干ばつを契機に第3次の嵩上工事（6.0m）及び土器川より取水するための天川導水路工事（4,668m）を県営事業として実施し、貯水量は15,400千m³と倍増。（工事費543,327千円）
〃 28～44	1953～1969	満濃池用水の有効利用のため、別途県営金倉川沿岸用水改良事業により、幹線水路の整備を行う。（工事費639,122千円）
平 成 3	1991	取水ゲート老朽化のため土地改良施設修繕保全事業によりゲート5門を改修。（工事費25,883千円）
〃 9～11	1997～1999	満濃池を地域の人々の交流と憩いの場として利用してもらうため、県営ふるさと水と土ふれあい事業によりふれあい橋や休憩所等の親水施設の整備を行う。（工事費170,000千円）
〃 20～28	2008～2016	国営農業用水再編対策事業（香川用水土器川沿岸地区）により、天川導水路等の幹線水路を改修。
〃 28	2016	国際かんがい排水委員会による「世界かんがい施設遺産」に登録。
令 和 1	2019	国の名勝に指定。ため池が名勝指定されるのは全国初。

堤塘横断面図



取水塔構造図



みどりためきち くん



受益面積 2,541ha

満濃池

天川導水路 4,668m

満濃池直接流域
1,280ha

満濃池間接流域
8,610ha

香川県農政水産部土地改良課

〒760-8570 香川県高松市番町4丁目1番10号

TEL 087-832-3437 FAX 087-806-0205

0 1000 2000 3000 4000m

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号 平25四複、第20号)